

個人間取引サイトにおける出品時確認事項調査

分担研究者	木村 和子（金沢大学大学院医薬保健総合研究科）
	坪井 宏仁（金沢大学医薬保健研究域薬学系）
	朱 姝（金沢大学大学院医薬保健総合研究科）
	吉田 直子（金沢大学医薬保健研究域附属 AI ホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター）
研究協力者	張 若愚（金沢大学大学院医薬保健総合研究科創薬科学専攻）
	山口 典枝（日本アイ・ビー・エム株式会社グローバル・ビジネス・サービスパートナー）
	森本 剛（アステラス製薬株式会社流通部）

研究要旨

【目的】インターネット上の個人間取引を行う場となる個人間取引サイトとして、フリーマーケットサイト（フリマサイト）やアプリケーション（フリマアプリ）が存在する。当該サイトを介した不適切な医薬品販売・譲渡の抑止に資するため、本研究では、主な個人間取引サイトにおける出品時確認事項を調査した。

【方法】日本国内で利用されている主な総合フリマサイト・フリマアプリ 8 サイトを対象に、アカウント登録時に要求される個人情報ならびに出品禁止物品について、アカウント登録画面と当該サイトの利用規約画面を観察することにより、調査を行った。

【結果・考察】本調査対象 8 サイトにおいて、アカウント登録時に共通して必要な情報は、メールアドレス、生年月日、ならびに利用規約への同意であった。1 サイトを除いて、アカウント登録時に本人確認を必要とするサイトはなかった。実際に出品する際に追加で確認される事項がないか、引き続き、調査を進める。また、いずれのサイトにおいても、利用規約に医薬品の出品禁止が記載されており、一部、承認を得た上で一般用医薬品の出品が可能である旨が記載されていた。今後、利用規約の遵守状況確認、違反事例とその対応について、運営者に対するオンラインインタビューまたはアンケート（メール送付）により情報を収集する予定である。

【結論】本研究で調査した日本国内で主に利用されている個人間取引サイトでは、それぞれの利用規約において、医薬品の出品が禁止されていた。しかし、その記載内容・具体性は、サイト間で異なっていた。また、当該サイト利用に当たりアカウント登録の際に、利用規約への同意が必須であるが、利用者が精読し理解しているかは不明である。利用者に対し、医薬品の出品禁止について、適切に注意喚起できる方策が必要と考えられた。

A. 研究目的

A-1. 背景

インターネットの急速な発展により、家にいながらにして買い物ができる生活様式が浸透している。様々な商品を求める人々のニーズは、同時にオンライン取引の発展を加速させている。オンラインマーケットには、一部の企業によるインターネット販売のほか、個人間の取引も存在する。不用品を売り、必要なものを安く買うことは、売り手と買い手双方の主な需要である。そして、その要求には医薬品まで含まれている。岸本氏たちの研究によると¹⁾、日本のフリーマーケットアプリケーションでの医薬品の出品件数は、メルカリで49件など、計181件であった。そのうち、調査時点で購入可能であったのは22.1% (40/181件) であり、それ以外では取引が完了していた。日本において、このようなフリーマーケットサイトを介した医薬品の個人間取引事例が確認されており、医薬品の不適正流通経路の1つとなっている。適正流通経路を逸脱して流通する医薬品の品質等は当然担保されず、医薬品セキュリティは欠落している。また、個人間取引を装った業としての販売の隠れ蓑となっている可能性も否定できない。

医薬品は、命を救うこともできるが、できるが、使い方を誤ると傷つけることもある諸刃の剣である。この非常に無責任な行為を阻止し、医薬品の不適正流通を抑止するため、インターネット上の個人間取引サイトにおける出品時の確認事項を調査した。

本年度は、日本での実態を把握するた

め、国内のインターネットフリーマーケットサイトを対象に、禁止品目・事項等の規定と利用者への伝達方法に関して調査を行った。

B. 研究方法

現在、日本国内で主に利用されている以下の8つのフリーマーケットサイト(アプリ)を対象に、各サイトで新規会員登録・アカウント作成前に確認できる禁止品目・事項を調査した。

1. メルカリ
2. ラクマ
3. ヤフオク!
4. モバオク!
5. ジモティー
6. PayPayフリマ
7. minne
8. Amazon

B-1. 利用規約

出品禁止物中の医薬品に関する記載や利用者のプライバシーポリシーについて調査した。

B-2. 会員登録

新規アカウントを作成する際に要求される情報を調査した。

C. 結果

C-1. 利用規約

国内フリーマーケットの利用契約や使用ガイドラインの調査を行った際、医薬品出品について、全てのサイトで医薬品の出品は禁止とされていたが、その記載方法や内容は、サイト毎に異なってい

た。各サイトの利用規約において、出品可能や禁止事項を詳細に記載しているサイトや詳細な分類や記載はなく「医薬品」を出品禁止としているサイトなど、様々であった。今回の調査では、医薬品出品に関する禁止事項、またその禁止事項の記載方法・表示内容に着目し、具体的な利用規約を観察した。その結果を Table 1 に示した。

C-1-1. メルカリ

<メルカリ>は、日本最大の総合フリマアプリである

(<https://jp.mercari.com/>)。月間利用者数は、2020 年 12 月時点で 1,700 万人程度と発表されている。累計出品数は 20 億品を超えて、比較的若い女性の利用者が多い²⁾。

メルカリの出品禁止商品は、『メルカリ利用規約第 9 条>2. 出品禁止商品』(<https://www.mercari.com/jp/tos/>)で、下記のように記載されている。

『2. 出品禁止商品

出品者はガイドの禁止されている出品物（以下「出品禁止物」といいます。）に記載された商品の出品ができないことについて、予め了承します。出品禁止物に該当する商品を出品した場合は、出品者の故意又は過失に関わらず、本規約違反行為とみなします。』

その中の『ガイドの禁止されている出品物』のリンクをクリックすると、『禁止されている出品物』

(<https://help.jp.mercari.com/guide/articles/259/>) にジャンプし、『医薬品、医療機器』のリンク先『医薬品、医療機器（禁

止されている出品物）』

(<https://help.jp.mercari.com/guide/articles/891/>) において、『概要』や『どのようなものが違反になりますか』の項目内で、詳細を確認することができた。

『違反にならないケース』として、医薬部外品（許可なく製造、小分けされたものは除く）、一般医療機器（法定表示がないものは除く）が挙げられており、『例：救急絆創膏、ピンセットなどの鋼製小物類、歯科用ワックスなど外装箱などに一般医療機器と記載がある商品かどうか確認のうえ、出品してください。』とイラストとともに図示されていた

(https://www.mercari.com/jp/help_center/getting_started/prohibited_items/)。

また、同ページ内の『その他の情報』に、『出品できない医療機器の詳細はこちらをご覧ください。』として、東京都福祉保健局の『届出等が必要となる医療機器の販売事例（家庭用マッサージ器等）』(<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kenkou/iyaku/koukokukisei/zenpanfrima/youtodokedekiki.html>) へのリンクがあり、より詳しい情報を確認できるようになっていた。

C-1-2. 楽天マーケット（ラクマ）

<メルカリ>に次いで人気を集めているフリマアプリが、<ラクマ>である。累計で 2,500 万ダウンロードを記録しており、利用者数は 1,000 万人程度とされている²⁾。

ラクマの利用規約については、『ラクマのルール>禁止商品リスト>医薬品>医

薬 機 器 な ど 』 で 確 認 で き た
(https://fril.jp/guide/manners/#forbidden_action)。

ラクマは、禁止医薬品・医薬機器について、より具体的に、詳細に記載していた。

C-1-3. ヤフオク!

<ヤフオク!>は、日本最大級のネットオークションサービスである。サービス自体は20年以上前から運営されているが、アプリ版の提供は、2017年から開始された。利用者数は1,000万人ほどといわれており、常時7,000万点以上の商品が販売されている²⁾。

ヤフオク!の利用規約において、医薬品の出品は禁止されていることが『第1編 ヤフオク!ガイドライン細則>B.出品禁止物>2. 医薬品等』(https://guide-ec.yahoo.co.jp/notice/rules/auc/detailed_regulations.html)に記載されていた。

C-1-4. モバオク!

<モバオク!>は、<DeNAグループ>が運営する、定額制のフリマアプリである。月額330円(税込)の利用料を支払えば、商品がどれだけ売れても、販売手数料は一切かからない点を売りにしている。利用者数は、200万人程度といわれている。利用料があるため、利用者の人数は無料登録のフリマと比べると少ないように見受けられた²⁾。

<モバオク!>での出品禁止については、「モバオク会員規約第7条出品>3.以下の商品等の出品を禁止します。」(<https://www.mbok.jp/kiyaku/>)において、

覚せい剤、麻薬、向精神薬、大麻、あへん、毒物、劇物、サリン等が記載されている他、医薬品が出品禁止となっていた。また、「ご利用ガイド」(https://www.mbok.jp/guide.html?_SRC=header_guide)にアクセスすると「会員規則・ルール」に「出品禁止アイテム及び禁止行為」(<https://www.mbok.jp/na/>)があり(Annex 4-2)、そのうちの「出品禁止アイテム」(<https://www.mbok.jp/na/na.html>)として「医薬品、医療機器」(https://www.mbok.jp/na/na-item-list.html#item_06)が記載されている。当該ページでは、医薬品の他に、漢方薬、医療機器等が挙げられており、東京都福祉保健局の「個人輸入した海外製化粧品を販売することはできません」(<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kenkou/iyaku/koukokukisei/zenpanfrima/kojinyunyutenbaing.html>)へのリンクがあった。

C-1-5. ジモティー

<ジモティー>は、地域の情報を提供する掲示板アプリである。不用品がある人は、<ジモティー>に掲載すれば、近場で引き取ってくれる人を見つけられる。相手と直接会って取引することもあり、その場合は、梱包や発送などの手間がかからない点で他のフリマサイトと異なる²⁾。

ジモティーの『利用規約・第9条(「売ります・あげます」「中古車」カテゴリの商品の出品)』において、『出品者ユーザーは、当社の指定する「出品禁止物ガイドライン」に記載のある商品を出

品することはできません。当社は、「出品禁止物ガイドライン」に記載のある商品又は当社が不適切と判断する商品が出品された場合、その出品を削除するとともに、本規約違反の行為がなされたものとみなします。』と記載があり

(<https://jmtj.jp/about/terms>)、『出品禁止物ガイドライン』

(<https://jmtj.jp/about/inhibition>) に、医薬品、医療機器等が挙げられていた。医薬品、医療機器の他、自ら製造または輸入した医薬品、医療機器および化粧品、承認前の医薬品および医療機器等が具体的に記載されていた。また、健康食品について、薬機法、都道府県条例、その他各種関連法令等に抵触しない範囲で投稿が可能な旨、記載があった。

C-1-6. PayPay フリマ

<PayPay フリマ>は、<PayPay>で支払いや売上金の受け取りができるフリマアプリである。利用者数は 300 万人程度とされており、ほかのアプリより利用者は少ないようだ²⁾。

このサイトは<ヤフオク!>と同じ運営会社であり、利用規約や会員登録は<ヤフオク!>と同じであった(<https://paypayfleamarket.yahoo.co.jp/>)。

C-1-7. minne

<minne>は、ハンドメイド作品に特化したフリマアプリである。累計 1,200 万ダウンロードを記録しており、2021 年 5 月時点で 1,325 万点の商品が販売されている²⁾。

Minne では、『利用規約>第 1 章 総則

>第 12 条 (作品の公開)』に、『3.販売者等は、第 1 項第 17 号に定める食べ物のカテゴリ (以下、「食べ物カテゴリ」といいます。)において、登録禁止作品として、前項に定めるものに加え、以下の各号に該当し又はそのおそれがあると当社が判断する作品を登録することができないものとします。4.医薬品 (動物用医薬品、指定薬物を含みます。)を含むもの』として、医薬品の出品が禁止されていた(<https://minne.com/terms>)。

C-1-8. Amazon 個人出品

Amazon では、『Help >規約、ガイドライン>プログラムポリシー>Amazon 出品サービスの手数料>カテゴリ、商品、出品の制限事項 / 制限対象商品』

(https://sellercentral.amazon.co.jp/gp/help/external/G200164330?language=ja_JP&ref=efph_G200164330_cont_201730840) に、医薬品や医療機器が掲載されており、適用されるマーケットプレイスを日本として、出品可能商品例と出品禁止商品例が詳細に記載されていた。医薬品の出品可能商品例として、一般用医薬品の出品には医薬品店舗販売業または薬局開設の許可が必要であり、Amazon による出品審査を受けた上で一般用医薬品を出品することが可能である旨の記載があった。医療機器の出品可能商品に関しては、商品に対する製造販売承認に加え、高度管理医療機器または特定保守管理医療機器を販売しようとする出品者は、所在地の都道府県知事の許可、管理医療機器 (特定保守管理医療機器を除く) を販売しようとする出品者は所在地の都道府

県知事へ届出が必要である旨、記載があった。

C-2. 登録時に要求される個人情報

各フリマサイトにおいて、アカウント作成・会員登録時に要求される個人情報について調査した結果を Table 2 に示した。

C-2-1. メルカリ

メルカリで会員登録をする際には、メールアドレス、google アカウント、facebook アカウント、または apple id からの登録方法があった。続いて、メールアドレスに加えて、パスワード、ニックネームの入力や性別の選択した後、本人情報登録として、姓名や生年月日、電話番号が求められた。

C-2-2. ラクマ

楽天が運営するラクマを利用する際には、楽天会員登録を行い、楽天 ID を作成する こと と な る (https://fril.jp/users/sign_up)。楽天会員登録には、メールアドレス、ユーザーID、パスワード、氏名、性別、生年月日、携帯電話番号の個人情報の登録が求められた。

C-2-3. ヤフオク!

<ヤフオク!>では、携帯電話の入力から、性別、生年月日、郵便番号、表示名、連絡用メールアドレスの入力が求められた。

C-2-4. モバオク!

<モバオク!>での新規会員登録をする際には、メールアドレス、生年月日、お

よび性別の登録が必要であった。

C-2-5. ジモティー

ジモティーは、本人確認が他のフリマサイト以上に求められる。メールアドレス、生年月日、性別の登録、利用規約の同意に加え、本人確認が二つ方法で行われており、電話番号認証または身分証登録のいずれか一つを選んで、本人確認を行う必要があった。

C-2-6. PayPay フリマ

出品禁止事項同様、会員登録・アカウント作成時に要求される事項は<ヤフオク!>と同じであった。

C-2-7. minne

Minne での会員登録の際は、姓名、メールアドレス、性別、生年月日、住所の登録が必須であった。

C-2-8. Amazon

Amazon 日本のホームページの一番下に『Amazon でビジネス』、『Amazon で売る』から Amazon 個人出品の会員登録を行う こと が で き る 。 (https://sell.amazon.co.jp/?ref_=asjp_soa_rd&ld=AZJPSOAFOOT&ref_=footer_soa) Amazon のアカウント持っている場合でも、登録済から始めて、姓名、国籍、出身国、生年月日、住所、携帯電話、メールアドレスを登録する必要があった。流れは他のフリーマーケットと違っており、個人でオンライン店舗を開設するような申し込み方で、Amazon の認証が必要となっていた。

D. 考察

本研究では、医薬品等の個人間取引について、国内の主なフリマサイトにおける出品制限状況を確認した。また、出品に当たって、個人が運営者に提供する個人情報について確認した。

D-1. 出品禁止物

本研究で調査したフリマサイト全てで、医薬品の出品を禁止とする記載があった。その記載方法には違いがあり、出品禁止物として「医薬品」と記載しているだけのサイトから、処方箋医薬品、医療用医薬品のほか、要指導医薬品や一般用医薬品として1-3類の記載があるサイトもあった。「薬機法に抵触するもの」や「日本国内で医薬品とみなされる成分を含んでいるもの」など、医薬品に該当するものは出品を禁止されてはいるものの、これらの事項に目を通すことなく出品してしまう利用者は少なくないと考えられる。ゆえに、安易に不要となった医薬品等を出品する事例が生じているものと考えられる。また、記載方法にサイト間で違いがあるため、いずれのサイトも医薬品の出品を禁止しているが、利用者によって、具体的に記載がない場合は禁止ではない等と解釈される可能性も考えられる。

D-2. 出品時確認事項

商品を出品しようとする際のアカウント登録で要求されるユーザー情報は、調査対象のフリマサイト間で異なっていた。いずれのサイトでも共通して要求される事項は、メールアドレス、生年月

日、および利用規約への同意であった。アカウント登録時に本人を確認するサイトは8サイト中1サイトのみであった。引き続き、実際に出品する際に追加で確認される事項の有無や追加確認事項がある場合はその方法等について、各サイト運営者への問合せ等により調査を進める予定である。

D-3. 出品禁止品目

調査対象全てのサイトにおいて、その利用規約として、法令等に遵守し、かつ、運営サイトの承認が得られている場合の一般用医薬品の出品を除き、医薬品の出品は禁止されていた。

各サイトの利用規約における出品禁止品目の記載方法には、サイト間で差が見られた。出品禁止商品として、「医薬品」とだけ記載しているサイトから、医療用医薬品、処方箋医薬品、一般用医薬品（1類～3類）、要指導医薬品から、脱法ドラッグの他、薬機法の定義で医薬品に該当するもの、薬機法に抵触するもの等と記載しているサイトまで様々であった。また、ジモティーでは、本人確認が他よりも厳しく行われているが、その理由として、売り手と買い手が直接会って受け渡しを行う事例があるため、その安全性を確保するための対処と考えられた。

利用規約に医薬品の出品は禁止されていることが記載されていても、現状では、出品者がそれを本当に読んでいるのか、また、正しく理解しているのかを確認することは困難である。医薬品の出品は禁止されていると分かっているが、商

品しようとする商品が医薬品に該当すると判断できない事例も少なからずあるものと推測される。今後、規約遵守状況の確認、規約違反事例や当該事例が認められた場合の対応について、各サイト運営者への問合せ等により、調査を実施する。また、取引終了後、アカウント削除後の追跡可能性についても調査する予定である。

D-5. 研究の限界

本研究では、日本国内の主たる総合フリマサイト・アプリを代表的な個人間取引サイトとして調査の対象とした。これら以外にも個人間取引サイトは存在し、釣り愛好家向けの〈つり〉やアニメファン向けの〈オタマート〉の他、〈magi〉、〈SHOPPIES〉など商品カテゴリを絞った個人間取引サイトも存在する。これら全ての個人間取引サイトにおいて、医薬品の出品禁止が明記されているかどうか、不適切取引をどのように抑止しているかは確認できていない。

E. 結論

本研究において、日本国内の主な個人間取引サイトでは、無許可での医薬品の出品は禁止されていた。これらのサイトでアカウントを作成する際に、必ず確認される個人情報（生年月日、メールアドレス、および利用規約への同意であった。しかし、利用者が利用規約を精読し理解しているとは限らない。また、実際に医薬品を出品し取引が成立すると、薬機法に抵触する可能性や医薬品の不適正流通に

加担している意識などがないままとなっている可能性がある。

引き続き、出品時追加確認事項、利用規約遵守状況とその確認方法、違反が認められた場合の対応、ならびに、対応困難事例等について、運営者に対するオンラインインタビューまたはアンケート（メール送付）を行い、情報を収集する。

F. 研究発表

1. 論文発表なし
2. 学会発表なし

G. 参考文献

1. 岸本 桂子, 竹内 智重, 福島 紀子, スマートフォン向けフリーマーケットアプリケーションにおける医薬品出品の現状と違反報告への対応, YAKUGAKU ZASSHI, 2017, 137 巻, 12 号, p. 1533-1541
2. BASE U, フリマアプリ 15 個、全比較！ <https://baseu.jp/21192>, accessed 23/3/2022

Table 1. 各フリーマーケット利用契約での医薬品販売・取引に関する禁止事項の詳細記載の有無

		メルカリ	ラクマ	ヤフオク!	モバオク!	ジモティー	paypayフリマ	minne	amazon
	処方薬	×	○	○	×	×	○	×	○
	要指導	×	○	×	×	×	×	×	○
	医療用	×	○	○	×	×	○	×	○
OTC	一般用	×	○	×	×	×	×	×	△
	第一類	×	×	○	×	×	○	×	○
	第二類～第三類	×	×	○	×	×	○	×	×
	漢方薬	×	○	×	○	○	×	×	×
	体外診断用	×	×	○	×	×	○	○	○
	該当成分含	○	○	○	○	○	○	×	○
	動物薬	○	○	○	×	○	○	○	○
	無許可・小分	○	×	○	○	×	○	×	○
海外製	個人輸入	×	○	○	○	○	○	×	○
	未承認	×	○	×	○	×	×	×	×
	邦文無	×	○	×	×	×	×	×	×
	未承認・無許可	○	○	○	○	○	○	×	○
	薬機法抵触	○	○	○	×	×	○	×	×
	医薬部外品	△	×	×	△	×	×	×	×
	研究用試薬	×	×	○	×	×	○	×	×
	劇薬・毒薬	×	○	×	×	×	×	×	×
	脱法・合法	×	○	×	×	×	×	○	○
	精力剤	×	○	○	×	×	○	×	×
	媚薬	×	○	○	×	×	○	×	×
	違法・危険薬品	×	×	○	×	×	○	×	○
	(サイト次第) 指定	○	×	○	×	×	○	○	○
	医療機器*	△	○	○	○	○	○	○	×
	販売禁止	×	×	○	×	○	○	○	○

○：記載有り

×

×

△：出品禁止や出品可能で両方記載有り、部分出品可能（メルカリ、アマゾン：出品可能例有り、詳細は本文である）

*：一般医療機器は除く、禁止しているのは「高度管理医療機器」や「管理医療機器」や「特定保守医療機器」

処方薬：処方箋医薬品、医療用医薬品

要指導：要指導医薬品

医療用：医薬品

体外診断用：体外診断用医薬品

該当成分含：医薬品に該当する成分が含まれている製品

無許可・小分：許可なく製造、小分けされた医薬品・医薬部外品（一部出品可能のは、医薬部外品のみとなる）

海外製・邦文無：邦文表示のないサプリメント、化粧品など（個人輸入品、お土産を含

む)

海外製・未承認：国内未承認の海外製医薬品

未承認・無許可：特に海外か国内か明確に分けていない記載の未承認や無許可製造医薬品

薬機法抵触：薬効表現、標榜が薬機法に抵触するもの

医薬部外品：医薬部外品（許可なく製造、小分けされたものは除く）

研究用試薬：医学等の基礎実験に使用されるものや、主に臨床研究を目的に患者に対して使用される、いわゆる研究用試薬

脱法・合法：脱法ドラッグや合法ドラッグ

精力剤：性的機能強化改善を目的とする商品（精力剤）

（サイト次第）指定：サイト次第に指定・判断している出品禁止医薬品・医療機器

医療機器：一般医療機器（法定表示がないものは除く）、医療機器（販売に法律上の許可または届出要）

販売禁止：ガイドや利用契約本文に「法律抵触」、また「国内販売禁止」と記載されているが、具体的な法律・法令は記載されていない

Table 2. 8 つのフリーマーケットでの新規会員登録確認情報対比
一覧表

	メールアドレス	姓名	性別	生年月日	住所	携帯電話	利用規約の同意	その他
メルカリ	要	要	要	要	不要	要	要	無
ラクマ	要	要	不要	要	不要	要	要	無
ヤフオク!	要	不要	要	要	要	要	要	郵便番号
モバオク!	要	不要	要	要	不要	不要	要	決済方法
ジモティー	要	不要	要	要	要	要	要	身分認証
paypayフリマ	要	不要	要	要	要	要	要	郵便番号
minne	要	要	要	要	要	要	要	無
amazon	要	要	要	要	要	要	要	国籍

